

自然生態園維持管理 (2017 年度)

白木 江都子 (自然遊学館わくわくクラブ)・岩崎 拓 (貝塚市立自然遊学館)

貝塚市二色 3 丁目にある都市公園「市民の森」内「自然生態園」は、大阪湾の埋立地にあるビオトープです。1997 年春から 3 年かけて、延べ 2, 000 人のボランティアによってつくられ、「トンボの池」「バッタの原っぱ」「ドングリの森」「海辺の植物ブロック」と 4 つのエリアがあります。

本年度は 1 年間を通じて降雨量が少なく、池の水を確保するのに苦しみました。台風はトンボの池には、ひとときの恵みの雨だったのですが、それもその場限りで第 1 タンクや第 2 タンクから補水する作業に追われ、更に 2 つのタンクの水が空になったこともありました。

2014 年 3 月に実施した池さらえ以後、ザリガニの成体も幼体も確認することはなかったのですが、にもかかわらずヤゴの種数、個体数は少なく、トンボの池をつくって 19 年を経過した今、漏水が起こっていることが確実に、根本的な対策を次年度に持ち越すことになりました。

以下各月の作業日の活動内容、およびトンボの池の生きもの調査で確認された種名を記しました。

<作業日誌>

2017 年 4 月 8 日、天候：雨 参加者：8 人

雨のため、自然生態園活動中止

2017 年度自然遊学館わくわくクラブ総会を開催

2017 年 5 月 8 日、天候：晴れ 参加者：2 人

第 1 タンクからトンボの池に補水し、水深を 15cm から 18cm にあげた。雨が降らないので、この程度の補水をあと 1 回すれば貯水槽が空になりそうだ。2016 年の 10 月以降、降水量が 100mm を切る月が 7 ヶ月続いている。たとえば 10 年前の 2007 年における水深推移記録では、降雨が無くても水深は 30cm からほぼ下がっていない。現在、冬季でも水深が 1 日に 1cm 程度下がるのは、漏水が原因に間違いのないと思われる。第 2 タンクも満水ではないが、明日は第 2 タンクから補水する予定。5 月 13 日の作業日は雨天中止

2017 年 6 月 10 日、天候：晴 参加者：12 人

トンボの池ではトノサマガエルが大合唱、♂が 2、3 匹いるようだ。

ドングリの森の石積みが一部崩壊していて危険だったが、やっと補修工事に取りかかった。山口進さん、北川敏喜さん、堀真治さんのベストメンバーで、プロに負けない修理が短時間で終わった。

3 月の活動日に伐採したヤマモモ枝葉の片付け



石積みの補修作業

自然生態園全体を刈り払い機で草刈り

海辺の植物ブロックでは、洋シバが繁茂し、剥がすのに手間がかかる。カモジググサも群落をなしている。ドングリの森の石積み修理各作業を終えた人たちも加わって、大勢で草抜きをした。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：岡田幸大、岡田尚子

水生昆虫（幼虫）：アオイトトンボ属、ギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、アカネ属、マルミズムシ属、ユスリカ科、ヤチバエ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ、ケシカタビロアメンボ、ヘリグロミズカメムシ、コマツモムシ、チビゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、トノサマガエル（鳴き声・幼生・卵）

備考 ヘリグロミズカメムシ（2009年6月以来2例目）

水中：シャジクモ、ウキクサ、アオミドロ

トンボ（成虫）：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、アカネ属

トンボ（羽化殻）：シオカラトンボ、アカネ属



ヘリグロミズカメムシ

（森本静子さん撮影）

上の2個体はケシカタビロアメンボ

2017年7月8日、天候：晴れ 参加者：8人

バッタの原っぱ、ドングリの森を刈り払い機で草刈り

ドングリの森の木々を剪定中、クヌギにトビモンオオエダシャクを発見。さすが尺取り虫、教えてもらってもなお見つけ難かった。

海辺の植物ブロックでは、洋シバが先月よりも一段と繁茂、所々にハマヒルガオが顔を出し始めた。もう少し海辺の植生を再現したいので、植栽や植物の種類を検討中

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：福田哲郎

水生昆虫（幼虫）：アオイトトンボ属、アオモンイトトンボ属、ギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：ヒメアメンボ（幼虫も）、カタビロアメンボ属（幼虫も）、コマツモムシ、マルミズムシ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、サカマキガイ、イトミミズ類、トノサマガエル幼生

備考 水中：シャジクモ、アオミドロ少し

水辺：セリ開花、コガマ穂

トンボ（成虫）：シオカラトンボ、ショウジョウトンボ

トンボ（羽化殻）：シオカラトンボ属、アカネ属

2017年7月19日

第1タンクが空になるまでトンボの池に補水

2017年7月24日

第2タンクが空になるまでトンボの池に補水

2017年7月29日

トンボの池が水深15cmになるまで補水する。

小池は干上がり、第1タンクと第2タンクは空

2017年8月14日

度々の補水作業が追いつかず、「トンボの池のヤゴとオタマジャクシが干上がることを思い浮かべ、もうダメかと諦めかけたが、7月29日、30日の雨と、台風5号のおかげでひとまず安心な水深に戻った。

2017年9月9日、天候：晴れ 参加者：4人

トンボの池の生きもの調べは、調査する森本静子さんが「胴長を穿いているのが恥ずかしいぐらい」と言うほど水が無い。第1、第2タンクともに空で、小池は干上がり、池はまるで田んぼだが、補水する水がない。

バッタの原っぱのバッタ調べは予想通り、種数・個体数ともに貧弱な結果。記録を残し始めた2006年からのデータと比較して、種数が8種というのは、最小タイである。

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：宮津穂花、森康貴、白木茂

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：カタビロアメンボ属（幼虫も）、コマツモムシ（幼虫も）、マルミズムシ（幼虫も）、ハイイロゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、イトミミズ類



トンボの池しらべ
(採集物の仕分け作業)



バッタ調べ
(講師：森 康貴さん)

備考 水中：シャジクモ、アオミドロ
トンボ（成虫）：シオカラトンボ
トンボ（羽化殻）：シオカラトンボ属

2017年10月14日、天候：晴れ 参加者：5人

トンボの池周辺の草刈りと池の内側空石積みの隙間に泥を詰めてみる。漏水対策になるといいが。

小池南側のウバメガシ剪定

トンボの池に架かる小橋は、2013年につけ替えたが傷みがひどくなり、架け替えが必要な時期が来たようだ。

自然生態園の標柱も、元が腐ってぐらついているので、こちらも立て替え時のようだ。

湯浅幸子さん、トンボの池周りの植物相調べ実施。ポントクタデ花・セイタカアワダチソウ花・コセンダングサ・ススキ穂・ヨシ穂・コアゼガヤツリ・アゼガヤツリ・タマガヤツリ。



石積みを補修
(水位が低くなったトンボの池)

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：ギンヤンマ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ属、マルハナノミ科

水生昆虫（成虫）：ケシカタビロアメンボ、コマツモムシ（幼虫も）、マルミズムシ

水生動物：イトミミズ類、トノサマガエル

備考 マルハナノミ科（幼虫）は、トンボの池で初記録

水中：シャジクモ、アオミドロ少し、コナギ実

水辺：ポントクタデ花、セイタカアワダチソウ花、ススキ穂、ヨシ穂、タマガヤツリ穂、アゼガヤツリ穂、コアゼガヤツリ穂（植物の同定：湯浅幸子さん）

トンボ（成虫）：アオモンイトトンボ、シオカラトンボ

トンボ（羽化殻）：シオカラトンボ属

2017年11月4日

海辺の植物ブロックは、種をびっしりつけたコセンダングサとオオアレチノギクで覆われる。あれが全部、芽を出すかと思うと、うんざり。コセンダングサだけを一部抜き取る。

2017年11月5日

台風が相次いで接近したことで多量の雨が降り、なかでも10月22日は、1日に213mmと記録的大雨。水深も久々に50cm以上を記録した。が、トンボの出現種数は淋しい限り。

2017年11月11日、天候：晴れ 参加者：7人

トンボの池はほとんど水が無い状態になり、ヤゴの種数は保たれていたが、個体数はかなり少なかった。

海辺の植物ブロック内に砂を補充する予定があり、その場所を確保する。実施時に砂に埋もれてしまうハマボウフウを移植。いつもの草引きは、主に、ヒメムカシヨモギ（たくさん種を付けている）、コマツヨイグサ、洋シバなどだった。



草抜き作業
(海辺の植物ブロック)

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ属、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：マツモムシ、コマツモムシ、マルミズムシ、ハイイロゲンゴロウ、チビゲンゴロウ

水生動物：ハブタエモノアラガイ、イトミミズ類

2017年12月9日、天候：くもり／晴れ 参加者：8人

年末年始を迎えるに当たっての、自然生態園全体の掃除と整理整頓。全体的に草刈りや、落ち葉を拾い集めて袋に詰める。道路にはみ出している草木を整理。

トンボの池周囲と第2タンク周囲の杭を点検。傷んでいる杭は削り直すなどして打ち直す。

海辺の植物ブロックでは、ダンチクとハマゴウを剪定。



落ち葉拾い

<トンボの池の生きもの調査>

採集者・仕分け：森本静子、岩崎拓

水生昆虫（幼虫）：クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、マルタンヤンマ、シオカラトンボ、シオカラトンボ属、ユスリカ科

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ

水生動物：サカマキガイ、ハブタエモノアラガイ、イトミミズ類、イシビル科

備考 水中：アオミドロ少し

調査後、落葉を1袋投入



マルタンヤンマの幼虫
(下は若齢幼虫)

2018年2月24日、天候：晴れ

トンボの池周りのススキの穂を刈りとり、繁殖旺盛なメリケンガムカヤを根から引き抜く。

2018年3月10日、天候：晴れ 参加者：9人

トンボの池のヤゴの数が極端に少なかった。理由は、水深が40cmといつになく深く、ヤゴの隠れ場所がたくさん有ったからだと思いたいが。トンボの池の水面にせり出していたヤマモモの太枝を伐採し、枝葉を細かく裁断して袋詰め。水深計近くのネズミモチの葉は、ハバチ幼虫の食害で壊滅状態。

自然生態園全体で、次年度付け替えの必要な老杭に赤印を入れてカウントすると、43本あった。



ヤマモモの伐採

<トンボの池の生きもの調査>

採集者：森本静子、岩崎拓

仕分け：阿部百花、阿部光希、山口隼平

水生昆虫（幼虫）：ギンヤンマ、シオカラトンボ、シオカラトンボ属、ユスリカ科、ホソカ科（蛹も）

水生昆虫（成虫）：コマツモムシ

水生動物：サカマキガイ、イトミミズ類、イシビル科

備考 水中：アオミドロ

1年を通しての傾向

- ・種数、個体数とも、2013年から2014年にかけての池干し後、減少傾向にある。
- ・春のトンボ類の羽化数も、同じく減少傾向にある。
- ・そんな中、トンボの池で2017年6月30日にマユタテアカネ1♂を確認。1997年以来初めての記録で、累積トンボ目種数が25となった。